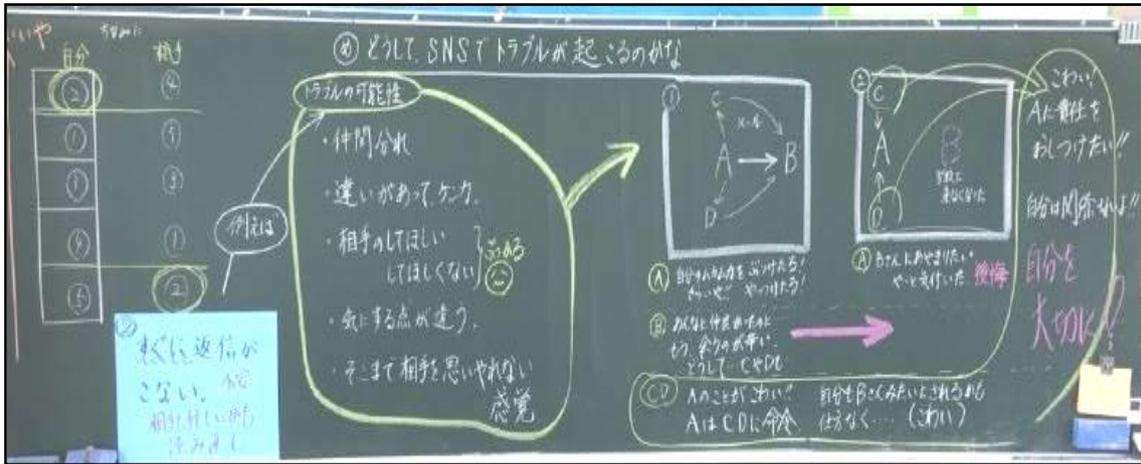


ネットコミュニケーション・リテラシーの学習



グループや全体での意見交流に関する資料

いやだ

知らないところで自分の話題が出ている 3 悪手

自分が一緒に写っている写真を公開される 5 悪手

---

なかなか会話が終わらない 2 悪手

話している時にケータイ・スマホをさわっている 4 悪手

すぐに返信がない 1 悪手

Aさんの基準

いやじゃない

いやだ

すぐに返信がない 1 悪手

自分が一緒に写っている写真を公開される 5 悪手

話している時にケータイ・スマホをさわっている 4 悪手

知らないところで自分の話題が出ている 3 悪手

なかなか会話が終わらない 2 悪手

Bさんの基準

いやじゃない

Aさんは「すぐに返信が来ない」嫌じゃない

Bさん「すぐに返信が来ない」嫌だ

「返信する」ことについてAさんとBさんにどんなトラブルが起こるだろう?

## 児童の感想

- 嫌なことの順位が違くとトラブルを起こす原因となってしまうので、気をつけようと思いました。そして、私にできることは、写真はできるだけ投稿しない。投稿する場合は、相手の許可をきちんととることだと思いました。トラブルを起こしたくないので、自分ができることはしていこうと思いました。
- この学習をして、④が1番いやと感じる人もいれば、④は別に何とも思わないと感じる人もいました。だから、けんかにつながるのかもしれないと思いました。相手の気持ちなどを考えて発言することが大事。自分が言われていやなことは言わないことが大切。
- ぼくはこの学習で、人の弱さが出ているなと感じました。なぜなら、あやまっていればすんで、いじめにならなかったからです。それに、わたしはいじめてないという責任のおしつけ合いもあったからです。これは、人のせいにしてているのと同じです。実際にあったことだから、ぼくはこんなことにならないように素直にあやまろうと思いました。
- 私はこの学習で、SNSと人間関係には深いかかわりがあると思いました。SNSで仲良くなったり、悪くなったりすることが分かりました。だからこそ相手のことを考えてSNSを使っていきます。

## 成果

子ども一人一人の嫌と感じる基準を可視化することで、同じ事柄であっても人によって嫌と感じたり、そう感じなかったりすることを捉えさせることができた。これにより、子どもたちはSNSとのかかわり方について考え、今後の生活に生かそうとする姿勢につながった。